海外実習 5 日目　9 月 20 日(木)　田辺麻優　藤原花恵

ホテルで朝食をとり，8 時にホテルを発ちました。8 時 40 分にパクチョンにあるナコーンラチャジマ家畜研究育種センター・パクチョン家畜研究センターに到着，ジョンジェット所長にセンターの概要を説明していただいた後に豚の繁殖と牛の繁殖についての説明を受けました。このセンターの豚は品種改良が繰り返され，繁殖力が高い，子供の数が多い，成長率が高い，耐熱性が強い，肉の生産性が良いといった特徴を持つ豚を掛け合わせ Pak-Chong 1 から Pak-Chong 5 の豚を生産しました。これらの豚は試験的に飼育され,肉として出荷されています。また，ここでの繁殖方法の 95%が繁殖種同士の体の大きさが合わないなどといった理由で人工授精(A.I.)を実施しています。

ナコーンラチャシマ家畜繁殖センター

このセンターでは，養豚場の排出物を管理し，バイオガスプラントで糞尿を発酵させてメタンガスを発生させ,発電しています。電力は一日 20kW ほどで，ここ以外のセンターでもバイオガスプラントを備えている施設では発電が可能です。排出物を乾燥した固形物は肥料，水分は処理をして畜舎の清掃に活用されています。

パクチョン家畜研究センターでの説明

乳牛はホルスタインフリージェンが 75％以上の牛を乳牛として飼育しています。泌乳量は一日当たり 14kg です。1973 年から酪農が始まり，タイの気候に適した品種改良のため，ニュージーランドやアメリカから輸入した乳量の多い牛とパキスタンの暑熱耐性の強い牛を掛け合わせるなどし，耐熱性があり乳量を確保できる牛を目指し，品種改良進めてきました。

その後，育成牛舎と搾乳室を見学しました。搾乳手順は体を洗い，手絞りをし，プレディッピング，ミルカーで搾乳し，ディッピングをするそうです。搾乳は，開始時間は 5 時 30 分と 15 時で，3 人で 100 頭を 6 つのミルカーを使い，2 時間ほどで終わらせます。

12 時 30 分にナコーンナチャシマの家畜研究発展センター訪問し，センターの説明と，タイで利用される家畜用の飼料，主に牧草についての説明を伺いました。現在はルージーグラスが一般的です。その理由は，種子があるために農家に配りやすいこと，放牧に向いていることです。しかし，今後は生産性の高いネピアグラスに移行するであろうとおっしゃっていました。この地域では，稲わらは忘れてはいけない重要な飼料です。乳牛には一日に 6-9 kg の稲わらと 1 kg の配合飼料を与えています。乳量は配合飼料に依存していて，1 kg 与えると 2 kg の乳量増加につながるそうです。

午前中の視察が終わった後に，畜産局の方々と昼食をいただきながら交流を深めました。タイ語や日本語をお互いに教え合い，タイの畜産について講義で受けた内容よりさらに細かいお話を伺いました。

畜産局の方との交流後のお礼のあいさつ

約 4 時間の移動を経てコンケンに到着しました。急遽，明日の予定を切り上げ，コンケン大学農学部の表敬訪問に行きました。農学部長のアナン教授による大学の説明と農業についてのお話を伺いました。この大学は日本の各地の大学 5 校以上と提携を結んでいます。また，東南アジアやアフリカ諸国とも密接な関係があるといいます。大学の広さは 1000 ha です。農学部だけで 2300 人の学生が在学しており，コンケン全体では 4 万人というとても多くの学生がいます。タイの農業の話では，農家が貧しいために，ほかの職についてしまい，農家人口が減っていることは大きな問題であること，そのために安い労働力がミャンマーなどからタイに来ていること，灌漑システムが十分でないために農家は貧しいことなどを，熱く語ってくださいました。夕食はコンケン大学の学生と食べました。バイキング形式のお店で鶏肉が柔らかくておいしくいただきました。